

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	のびっこらんど泉 (児童発達支援事業)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達に合わせた療育を行っている。	初回利用時および半年ごとにアセスメントを行う。保護者からの聞き取りを定期的に行っている。日頃から行動観察し、支援内容に活かしている。	継続し、アセスメント及び行動観察を行う。また、診断書や検査結果の内容を踏まえ、課題を設定していく。
2	療育の中で保護者と共感的に支援をしている。	毎回の利用時に、必ず口頭で療育での様子をお伝えしている。また、面談日を設け、困りごとがあればその都度対応している。	時間の都合上、口頭での申し送りが難しいときなどは連絡帳なども活用し、より保護者へわかりやすくお子さんの様子をお伝えする。
3	お子さんがたのしく通所することができている。	たのしく参加できるような課題設定や活動を行っている。また、プログラムが固定しないよう工夫している。感覚統合やルールあそびなど発達段階に合わせ、様々な経験ができるような内容にしている。	引き続き、安心して通所して頂くために、スタッフ間で自己研鑽に努め、より良い療育を行えるようにする。保護者やお子さんからの要望などもお聞きし、プログラムに組み込んでいく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や地域の子どもの活動する機会が少ない。	地域の子どもと関わる機会がない。また、近隣の保育所等との利用児に対する連携(情報共有や訪問等)はあるが、事業所と園で活動を共にする機会がない。	地域の子どもたちにも参加頂けるイベント等を考案し、事業所のお子さんと地域の人々が関われる機会を設ける。
2	保護者様へ防災マニュアル等、避難訓練実施の周知が足りない。	月に1回、避難訓練を実施しているが、個別指導の利用者には避難訓練が実施できていない。	月1回の避難訓練のほかに、別な曜日の利用者にも避難訓練や防災についての取り組みを行う。マニュアル等に関しては、保護者会や文書でお伝えする。
3	保護者同士の交流の場を設けているが、きょうだいへの支援ができていない。	きょうだい同士の交流の場を設ける機会が少ない。	今後サロン等を通して、保護者さん同士の交流や情報交換ができる場を設定する。その際には、きょうだい同士の交流の場も一緒に行う。